ナーシング・グラフィカ
疾患と看護⑦『運動器』　正誤表

第1版第1～第3刷

以下の箇所に誤りがありました．謹んでお詫びし訂正いたします．

3章　整形外科で行われる検査と看護　1節　整形外科で行われる主な検査
1　整形外科の主な検査とは　4　検査の方法
p.40　検体検査

【誤】

検体検査

▶ 血液・尿生化学検査

炎症性疾患では，白血球数やC反応性タンパク（CRP）検査を行う．白血球分画も有用な情報である．代謝・内分泌疾患では血清カルシウム，リン，アルカリホスファターゼ検査が必須で，骨粗鬆症では骨代謝マーカー（➡p.71用語解説参照）を評価する．

▶ 微生物検査

分泌物，膿性貯留液，穿刺液を細菌培養検査に提出する．培養検査前に抗菌薬を投与されていると陰性所見を得やすいため，注意が必要である．

▶ 関節液検査

関節液の外観や性状を調べる．結晶誘発性関節炎では，偏光顕微鏡検査が有用である．関節穿刺は無菌的に行うことが必須であり，穿刺部位の周囲を広めに消毒してから行う．

▶ 脳脊髄液検査

側臥位で腰部前屈位をとり，腰部の椎間からスパイナル針（22～23G）を用いて行う．うっ血乳頭のある脳腫瘍，脳外傷，脳血管疾患では脳ヘルニア*を起こす危険があり，禁忌である．

生体検査

▶ 電気生理学的検査

筋電図，神経伝導検査などがある．

▶ 組織学的検査

骨軟部疾患，代謝性骨疾患，神経疾患，筋炎などの確定診断を得るために，病変部から組織を採取して病理組織診断を得る．

Copyright©2024 MEDICUS SHUPPAN, Publishers Co., Ltd. All Rights Reserved.

【正】

検体検査

▶ 血液・尿生化学検査

炎症性疾患では，白血球数やC反応性タンパク（CRP）検査を行う．白血球分画も有用な情報である．代謝・内分泌疾患では血清カルシウム，リン，アルカリホスファターゼ検査が必須で，骨粗鬆症では骨代謝マーカー（➡ p.71 用語解説参照）を評価する．

▶ 微生物検査

分泌物，膿性貯留液，穿刺液を細菌培養検査に提出する．培養検査前に抗菌薬を投与されていると陰性所見を得やすいため，注意が必要である．

▶ 関節液検査

関節液の外観や性状を調べる．結晶誘発性関節炎では，偏光顕微鏡検査が有用である．関節穿刺は無菌的に行うことが必須であり，穿刺部位の周囲を広めに消毒してから行う．

▶ 脳脊髄液検査

側臥位で腰部前屈位をとり，腰部の椎間からスパイナル針（22 ～ 23G）を用いて行う．うっ血乳頭のある脳腫瘍，脳外傷，脳血管疾患では脳ヘルニア*を起こす危険があり，禁忌である．

▶ 組織学的検査

骨軟部疾患，代謝性骨疾患，神経疾患，筋炎などの確定診断を得るために，病変部から組織を採取して病理組織診断を得る．

生体検査

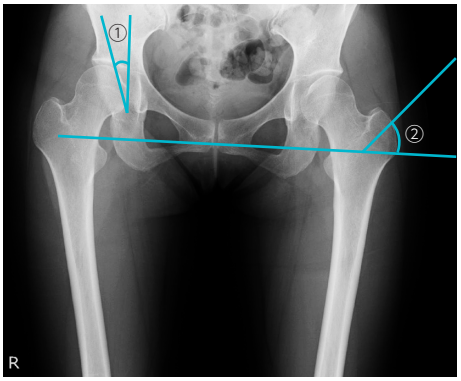
▶ 電気生理学的検査

筋電図，神経伝導検査などがある．

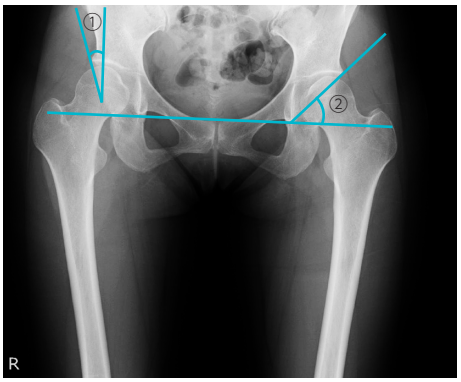
Copyright©2024 MEDICUS SHUPPAN, Publishers Co., Ltd. All Rights Reserved.

11章　変形性関節症　1節　変形性股関節症　1　変形性股関節症とは　7　診断
p.217　図11-4　CE角/Sharp角/AHI

【誤】



【正】



Copyright©2024 MEDICUS SHUPPAN, Publishers Co., Ltd. All Rights Reserved.